

職員団体との交渉の議事要旨

(開催日時)

平成25年7月11日(木) 13:30~14:30(60分)

(開催場所)

札幌第1合同庁舎15階1・2号会議室

(出席者)

当局側(北海道開発局)

関 博之(北海道開発局長)、稗田 昭人(開発監理部長)、
山崎 弘善(開発監理部次長)、福松 也寸志(職員課長)、
加藤 章(総務課適正業務指導官)、横田 康弘(職員課長補佐)

職員団体側(全北海道開発局労働組合)

安田 宗一(中央執行委員長)、高倉 司(副中央執行委員長)、
藤田 晃久(書記長)、熊倉 輝人(中央執行委員(企画部長))、
服部 雅欣(中央執行委員(組織部長))、上山 新吾(中央執行委員)

(議題)

【2014年度勤務条件改善に関する要求関係】

超過勤務の縮減について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、交渉議題として取り決めた事項について回答(別紙のとおり)。

(要 旨)

(職員団体) 今年度の超過勤務の状況をお聞きしたい。

(当 局) 平成25年度の超過勤務の状況について、昨年同時期と比較すると、本局では減少傾向にあり、開発建設部ではほぼ横ばいで推移しているものの、昨年度は長期間にわたる災害対応が多発したことを考慮すると、更に超過勤務の縮減に向けた取組に努めていかなければならないと考えている。

(職員団体) 超過勤務縮減に向け、今年度新たに取り組んだことはあるか。

(当 局) 超過勤務縮減に向けた取組の一環として、昨年度超過勤務実態が全道的に見て多かった課所に対し、個別に超過勤務の要因分析や対応策の検討を行うとともに、今年度におけるフォローアップなど指導の強化を指示しているところである。

(職員団体) 職場では、管理者による業務の進行管理が十分ではなく、予算や時間数の管理に重点が置かれた超過勤務命令が行われ、実態に合った管理がされていないと聞くが、当局の認識をお聞きしたい。

(当 局) 管理者は、業務遂行上の必要性のほか、職員の健康や予算等を勘案の上、超過勤務を命じている。管理者に対しては、業務の進捗状況の把握ときめ細かな進行管理を行い、実態に即した適正な勤務時間管理に努めるよう、引き続き指導の徹底を図っていきたい。

(職員団体) 円滑な業務処理のためには、業務推進工程表により業務の全体像や計画を職員に示し、幅広く情報を共有することが重要だと考えるが、コンプライアンスを意識するあまり、職員に業務に必要な情報が不足し、超過勤務の要因の一つになっていると考えられる。必要な情報については、職場内で十分な説明がなされるよう管理者を指導してもらいたい。

(当局) 業務推進工程表は、各職場の管理者が各々の業務内容等に応じて作成し、職員へ説明しているところあり、引き続き、情報管理は遵守しつつ、円滑な業務処理に資するために必要な情報については、適宜職員へ提供するよう管理者を指導していきたい。

(職員団体) 有効な超過勤務縮減方策が見出せない中、職員の負担軽減のためには、まず、上司と部下とが風通し良く意見交換できる場を設け、職場内において信頼関係を築くことが重要であると考えerがどうか。

(当局) 部下から信頼される管理者の育成に努めるとともに、職場内ミーティングや会議等を有効に活用し、できる限り職員の負担軽減に努めるよう、引き続き管理者を指導していきたい。

※文責は北海道開発局当局(今後修正があり得る)

交渉議題に係る回答メモ

(2014年度勤務条件改善に関する要求)

平成25年7月11日

超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、当局としても重要な課題であると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行など、超過勤務の縮減に努めてきたところである。

また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。